

「共助社会」について思うこと



(特非) シビルNPO 連携プラットフォーム 個人正会員

株式会社 小野工業所 臼田 総一郎

3月に個人会員として入会させて頂いた、株式会社小野工業所の臼田です。「会員からの投稿」への執筆依頼を受け、改めてCNCP通信のバックナンバーを拝見させていただいたところ、かつて親交のあった「高橋万里子」さんや「下村嘉平衛」さんの投稿記事があり、とても懐かしく読ませていただきました。また、現在関わらせていただいているインフラメンテナンス国民会議とCNCPの関係やこれまでの皆さんの活躍状況なども理解できました。

私はかつて東急建設に39年間在籍し、多くの現場経験をしました。その関係で、結婚後も支店や現場間の移動で引越しを9回しました。長女はすでに孫もいますが、幼稚園を2か所、小学校は3度転校し、4つの学校へ通い、下の子供は2つの幼稚園と2つの小学校を経験しています。長女の中学校入学以降は、単身赴任生活となりました。余談ですが退職後も引越しをし、現在は計10回となっています。多くの引越し経験から我が家では「断捨離」が自然にできているのは引越しの効用と勝手に思っています。また、夫婦で引越しの軌跡をたどり、当時、お世話になった人たちとの再会や従事した現場を見たりしながら旅行するのも楽しみのひとつになっています。

CNCPの目的に「共助社会づくり」というキーワードが書かれています。国においても自助・共助・公助のバランスの取れた政策を検討していく必要があるとされていますが、地方で育った私の子供のころは、そのバランスはそれなりにとれていたように思っています。高度経済成長や核家族化、都会への人口集中などとともに自助・共助が減って、公助頼りになってきたように感じています。かつては町内会、自治会、青年団、児童会、PTAなどを通じて地域の共助は押しつけに感じることもある位、それなりに機能していたと思っています。また、前述の引越し経験から地域差も多くあると感じています。今も十分機能している地域もあると思いますが、時間距離が短くなり、生活習慣も変わってきた現在、かつて地方にあった共助に戻ることは困難で、新たなシステムが必要ではないかと考えます。

更なる高齢化社会において自助・自立の意志はあっても共助なしでは生活が困難になる人も増えてくると思います。これからの新たな「共助社会づくり」において中間支援組織としてのCNCPには多くの役割があるものと思います。微力ながらCNCPの活動に協力させていただければと思っています。今後ともよろしくお願いします。